東京学芸大学教育実践研究　第16集　pp. 129-139，2020

メディア・リテラシー教育におけるアニメーションのリプレゼンテーション

―― ムーミン及び京都アニメーション作品における舞台についての教員養成大学生の態度 ――

和　田　正　人*

（2019年11月25日受理）

WADA, M.; Representations of Animations in Media Literacy Education: *Attitudes of Pre-service Teachers Toward Settings of Animated TV Program, Mumin and Kyoto Animation*. ISSN 1349-9580

Most settings of popular animated TV programs represent real places and the representation is a key concept of media literacy education. The present study investigated attitudes of pre-service teachers toward representations of animated TV programs in school education. Twenty teachers were asked their attitudes toward utilization of animation on teaching textbooks and on Japan National Center Test for University Admissions (Test). Dependent t-tests revealed that score of the textbook was significantly higher than that of Test, for tolerance of animation, $p<.01$. Seven teachers wrote that it might be inappropriate to ask entrance test takers to solve the animated problem of Test. Pilgrimages to sacred places of works of Kyoto Animation have come into a person's mind after Kyoto Animation Arson Attack. 25 teachers answered the questionnaire of the anime pilgrimages. Teachers had known 20 of 25 works of Kyoto Animation, but they did not know the sacred places of the works. 18 teachers had known 37 places of the anime pilgrimage in Japan and had gone 3 places of it around their university.

KEY WORDS : Animation, University Entrance Examination, Teacher Education, Anime Pilgrimage, Media Literacy Education

* *Center for ICT*

1．問題の所在

本研究は，メディア・リテラシー教育のリプレゼンテーション（representation）の要素の中で，舞台（place）の問題を扱ったものである。そのメディアをアニメーションとし，特に大学センター入試試験問題のムーミンと，日本のアニメーションの聖地巡礼を検討した。そして対象とした教員養成大学生が，それらのアニメーションについて持つ態度を明らかにしたものである。

そのために，まず，メディア・リテラシー教育におけるリプレゼンテーションについて概観し，次にセンター入試におけるムーミンの出題と聖地巡礼についての調査を行なった。

本論文におけるアニメーションは，「日本スタイルの商業アニメーション」（須川，2019）[1] を指す。より詳細には，「アニメーションは，ラテン語で霊魂，活気，生気を意味するanimaが語源であり，命のないものに命を与えて動かす（animateする）という意味をもち」，「非生物を動かす表現すべてがアニメーション」（須川，2019）[1] とした内容を用いる。

また，本書では，「アニメオタク聖地巡礼」のような特別な言葉以外は，アニメーションという言葉を用いる。

* 東京学芸大学　ICTセンター

１．１　メディア・リテラシー教育のリプレゼンテーション

（1）日本におけるリプレゼンテーション

日本ではメディア・リテラシーとして，リテラシーの概念と教育内容が一体化して現在に至っている。しかし海外では，メディア教育（media education），あるいはメディア（media）という科目の授業が行われている（QCAA，2019）[2]。そこで日本でもメディア・リテラシー教育（森本，2014）[9] という用語を使うことがある。

このメディア・リテラシー教育の構成概念のひとつがリプレゼンテーションである。訳語では「表象」とされているが，児童生徒が日常使う用語ではないために，そのままリプレゼンテーションとカタカナ表記されることも多い。また，中橋・水越（2003）[3] は，「表現」という表記を用い，リプレゼンテーションを「考えをメディア（機器・メッセージ）で表現（representation）するもの」としている。そして，高校「情報A」の「情報伝達の工夫」を意識した単元（棚田・黒田，2001）[4] の実践を紹介した。

（2）オーストラリアにおけるリプレゼンテーション

1）科目のシラバスでのリプレゼンテーション

オーストラリアのクイーンズランド州で行われている高校のメディア教育での「映画，テレビ，ニューメディア」科目のシラバス（QCAA，2019）では，「映画，テレビ，ニューメディアの科目は，探究型学習モデルを用いて制作と利用の文脈において活動する５つの基本概念の探究を通して，シンキング・スキルとクリティカルな能力を発達させる」としている。この５つの基本概念は技術（technologies），リプレゼンテーション，オーディエンス，機関（institutions），メディア言語である。

その中で，リプレゼンテーションは，「動画メディアの制作と利用において意味を創造するために適用される，人々，舞台（place），出来事，アイディアと感情」と定義されている。

2）リソースブックにおけるリプレゼンテーション

オーストラリアでは，教師がカリキュラム作りや授業の参考とするシラバス以外の資料にリソースブックがある。そこでは，教師のための実践の用途に特化しているために，定義をはっきりとは示していないものの，リプレゼンテーションをより詳細に説明している（Stewart & Kawaltze，2008）[5]。

スチュワートとカワルツェ（2008）[5] は，メディアはリアリティを表す（present）ことではない。メディアはリアリティの選択を提供することによってリアリティをリプレゼンテーションする」としている。さらに，「メディア版はプレゼンテーションであるとは言われず，リ・プレゼンテーション（re-presentation）といわれるものである」，と説明している。さらに，「メディアのリプレゼンテーションとは描写（depiction）であり，類似（likeliness）であり，構成された（constructed）画像（image）であるとしている。また，「リプレゼンテーションは，一つの画像だったり，連続した複数の画像だったり，番組全体であったり，書かれた単語や話し言葉だったり歌詞だったりする」としている。

そして彼らは，このリプレゼンテーションの作用を５つあげた。それは，1）要素を繰り返して構成する，2）リプレゼンテーションを識別したり認識するように導く，3）人々や出来事や思想をカテゴリーに分ける，4）物の見方を与える，5）ものごとを特定する形式がある。

Buckinghum（2003）[6] もリプレゼンテーションを学ぶことで得られることを列挙している。それは，リアリズム，真実を語ること，存在することと存在しないこと，バイアスと客観性，ステレオタイプ，解釈，影響とした。

（3）本研究におけるリプレゼンテーション

アニメーションのリプレゼンテーションでも，主人公の姿かたち，服装，性格，家族や人間関係，住居や周囲の建物，児童生徒ならば教師や同級生との関係，学校や教室，通学路，通学手段，その環境など，描かれた全てがリプレゼンテーションになる。しかし全てのリプレゼンテーションを研究対象とすることは困難である。したがって，本研究では，入試問題で問題を指摘されたムーミンの舞台（場所）と京都アニメーションの作品を代表とする聖地巡礼の場所に焦点を当てる。

１．２　センター試験におけるムーミン問題

（1）センター試験とムーミン

2018年１月13日に実施された大学入試センター試験[7] 地理Bの問題で，ムーミンとフィンランド語の組み合わせを問う問題が出題された。

この試験の受験者は147,026名である。60分間で35問に回答するために，１問103秒以内の回答が必要である。そのために，問題をじっくりと考えている余裕はない。

しかし，日本人のフィンランド観光の目的のひとつがムーミンを目にすることであることを知っていさえすれば，この入試問題を解くことは困難ではない。

すでに，日本人が観光旅行先にアニメーションの舞台を選ぶことは珍しくはない。例えば，スイスへの観光は，「アルプスの少女ハイジ」の舞台（ちば，2017；鷲田，2019年９月19日））[8] [10] のマイエンフェルト近郊の村に行くことも目的の一つになっている。ベルギー観光も「フランダースの犬」の舞台であるアントワープ大聖堂を訪れることである。スウェーデン観光も「魔女の宅急便」

の舞台を訪れ，台湾観光も「千と千尋の神隠し」の舞台の九份を訪れる。

日本でもムーミンの名前を冠した場所は現在でも人気がある。2019年に飯能市にムーミンパークが開園し，飯能市もふるさと納税制度「ムーミン基金」を設定した。さらに，ムーミン関連商品の販売店が都心に7店ある。またムーミン保育園，ムーミン幼稚園に加え，ムーミン喫茶店6店，ムーミン居酒屋やスナック，ムーミン美容院まである。ムーミンの児童向け大型本（Macmillan Children's Books et al, 2017）[11] も英語版の出版後1年以内に翻訳が出版された。

（2）センター試験でのムーミン問題の報道

1）ムーミン問題の新聞報道

こうした日本でよく知られたムーミンだからこそ，ムーミンを出題した入試問題がニュースになった。

朝日新聞の経緯では次のようになっている。入試翌日の1月14日に，ムーミンの入試問題に関しては，受験生からのツイッター，ムーミン公式サイトからの意見，フィンランド大使館によるツイッターを記載した（片山，2018年1月14日）[12]。

2日後の16日には，ムーミンの公式サイト運営会社の回答，フィンランド大使館の広報担当者の話，アニメの制作会社の取材，スウェーデン大使館のツイッターのつぶやきも載せている。そして，大阪大学大学院言語文化研究所及び朝日新聞社から入試センターによる問い合わせ中としている（土居・峯俊，2018年1月16日）[13]。

翌17日の紙面で，大学入試センターの回答として「知識・思考力を問う問題として支障はなかった」，「キャラクター自体に関する知識は直接必要なく，ムーミンの画像から「低平で森林と湖沼が広がるフィンランド」であると掲載した（峯俊，2018年1月17日）[14]。

10日後の紙面では，入試センターの見解に加えて，肯定的な意見として「知念学舎」塾長の「入試改革を見据え，同じような問題は増える」との話，尾木直樹の「ムーミンの問題は洞察力が求められているので「良問」」としたブログの紹介も掲載した。否定的な意見として，大阪大学大学院スウェーデン語研究室の「前提がなくなれば，解答不能」との指摘や，高校教員グループによる「画像のような平地・樹木・湖沼はノルウェーにもある」，「科学的推論のプロセスとして妥当性を欠く」とした意見も掲載した（峯俊，2018年1月27日）[15]。同時にこの問題の騒動を取り上げたフィンランドの新聞も紹介した（斎藤・土井，2018年1月27日）[16]。

2）入試センターの意見

出題者の大学入試センター（2018）[7] の報告書に掲載された各団体の意見は次のものである。

高等学校教科担当教員の意見・評価では，「受験者にとって身近なアニメーションを資料として用いることは，新しい傾向で評価できる」，「アニメーションの背景からフィンランドと判断するのはやや困難である」，としている。

日本地理教育学会は「世界史の既習事項をあわせて解答は可能である」とし，全国地理教育研究会は「歴史的な知識から解答可能で標準の難易度であり，ムーミンの活躍の舞台については問いの解答には影響しない」としている。

さらに，問題作成部会は，「歴史と言語に関する知識から類推できる問題との評価であったが，「舞台」という用語を用いたことなど，問題文の文言に厳密性・正確性を欠いた部分はあった」と報告している。

3）報道されなかった問題

こうしたムーミンの入試問題には新聞報道されなかった3つの問題がある。

1つ目は，入試問題でのムーミンの姿が，オリジナルなムーミンの姿[11]（Ardagh & Frank，2017）とは異なり，日本のアニメ会社が，より丸みを帯びた姿にしたことである（ちば，2017）[8]。

2つ目は，ムーミンの原作がスウェーデン語で書かれ，作者のトーベ・ヤンソンがスウェーデン人であり，フィンランドの公用語がフィンランド語とスウェーデン語の2つ（外務省，2019）[37] ということから，ムーミンはフィンランド語とだけの関連ではないということである。

3つ目は，選択肢の「小さなバイキング・ビッケ」の主人公が角付きの兜をかぶっていることは，現在では架空のもの（Nationalmuseet - museer og slotte i hele Danmark，2019）[38] であり，歴史的事実でないバイキングのステレオタイプが示されたことである。

こうした3つのことは，メディア・リテラシー教育では基本的な学習事項である。

（3）アニメーションと学校教育

学校教育では以前からアニメーションが用いられてきている。すでに川上（1968）[17] は，映像教育論で「動く絵ばなし」として，マンガを動かす制作を教育として考えた。

また，文学を原作とした「アニメ文学館」や，中学生向きの「アニメ古典文学館」が教育場面で用いられてきた。米村（2019）[18] は「伊豆の踊子」を小説，映画，アニメーションで比較して，アニメーションでは，主人公による性的に搾取される対象としての踊り子への妄想場面を緩和的な表現に変更する教育的な配慮があるという。

アニメーションを利用した教育実践も様々に報告され

ている。小学校では，豊田・西村（2004）[19] による「ごんぎつね」を映像とアニメーションで表現したメディア・リテラシー育成が報告された。他にも小学校での実践[20][21][22][23]，中学校でも多くの実践があり[24][25][26][27][28][29][30][31][32][33][34]，高等学校も少ないが実践がある[35][36]。

一方，これから教師となろうとしている学生にとっては，小中高校と教科書でアニメーションがふんだんに用いられており，さらに教師となってアニメーションが豊富な電子教科書も用いることが予想されるので，入試問題でのアニメーション利用は問題ないと考えている可能性もある。

したがって，教員養成大学生が，新聞で記事になったように，センター入試でアニメーションを扱うことは問題としているかどうかを明らかにする必要がある。

１．３　京都アニメーション放火殺人事件と聖地巡礼

（１）京都アニメーション放火殺人事件

京都アニメーション放火殺人事件は，2019年７月18日に，京都アニメーション第１スタジオに男が侵入してガソリンを撒いて放火して，社員36人が死亡して33人が負傷した事件である。

事件後の報道では，８月18日には被害者の父親について[40]，世界の追悼[41]，被害者の新人社員[42] について報道された。９月４日には犠牲者追悼法要[43] が，９月10日の被害者の実名報道の問題点[39]，９月18日にはアニメ映画『聲の形』の手話モデル指導の大学生[44]，10月19日には放火現場の取り壊し・アニメ劇場版の映画化計画・31億9244万円の義援金[45]，11月３日にはファン向けのお別れ会[56]，と継続的に報道されている。

（２）聖地巡礼とは

この報道では京都アニメーションが聖地巡礼を広めたことも説明された。この聖地巡礼の定義も変遷してきた。

宗教と観光が未分化であった時代の聖地巡礼の定義は，「宗教の創始者や聖人の誕生地・埋葬地のような生前関わりのあった場所，あるいは神や精霊といった存在と関わる場所への旅」（岡本，2015）[46] とされた。しかし，岡本は宗教と観光が結びついた現代では，「聖地観光」というニュアンスを含む定義がふさわしい[46] ともしている。

例えば，宮本勝浩による四国八十八ヶ所の遍路の経済効果の試算によると，四国地域は1,320億4,698万円に上る（関西大学プレリリーズ，2016）[49]。また，第二次世界大戦中の米国のクリスタルシティ日系人強制収容所跡の訪問も巡礼と呼ばれている（NHK，2019年10月５日）[50]。

こうした巡礼の意味が変化した中で，アニメファンがアニメの舞台に行くことも聖地巡礼と呼ばれるようになっていく。

（３）アニメ聖地巡礼とは

１）アニメ聖地巡礼の定義と特質

「アニメ聖地巡礼」という言葉を提唱した岡本（2018a）は，その定義として「アニメやゲーム，マンガ等，オタク系文化のコンテンツ作品の背景として描かれた場所を訪ねる行為」とした。そして，京都アニメーション作品である「らき☆すた」の聖地と，「けいおん」聖地の豊郷小学校旧校舎群について調査を行なった[47]。

そこで，岡本（2018a）は，アニメ聖地巡礼者の５つの特質を文献や新聞・雑誌よりあげた[47]。それは，１）アニメで用いられた風景を撮影し，情報をインターネットで発信すること，２）ノートへの書き込みや絵馬，アニメのグッズなど，地域に何か巡礼の記念物を残すこと，３）旅行動機はアニメの舞台を訪ねることだが，現地の人やファン同士の交流を楽しむこと，４）リピーターが多く，なかには高頻度で当該地域を訪れたり，海外も含め遠方からアニメ聖地巡礼に訪れる者もいること，５）10代から40代の男性が多いこと，である。

また岡本（2018b）[48] は，巡礼ビジネスに必要なこととして，人々が情報を受信するだけでなく，広く発信するようになってきていることから，現在は，受容者教育を踏まえつつも，「創作者」「発信者」としてのリテラシー教育が必要とされているとした。そこで，様々なメディアやコンテンツの特性を理解して，どのように活用していけるのかに焦点を合わせた学びも必要としているとした。さらに，メディア・リテラシーの構成要素として，浪田・福間（2012）の３要素[53] と中橋（2014）[54] の構成要素も挙げている。

一方，サブカルチャーとしての聖地巡礼を構築主義から考え，既存のアニメ聖地巡礼の研究，特に観光学とオタク文化的な研究には納得できないという立場がある（由谷・佐藤，2014）[55]。由谷（2014）は，「1990年代の「美少女戦士セーラムーン」のファンは，アニメーションの舞台ではなく，麻布氷川神社に押し掛けていた，という。2014年３月時点で，茨城県の大洗磯前神社では「ガールズ＆パンツアー」のイラスト入り絵馬が最も多く奉納されているが，アニメーションでは，鳥居や参道が数秒間描かれただけで，拝殿や境内は作品の舞台ではない」[55]，とした。こうしたことから，由谷は「聖地とは単なるアニメ作品の舞台ではなく，巡礼者側が恣意的に選択し，聖地と意味づけた場所，と構築主義的に解釈すべきであろう」とした[55]。

メディア・リテラシーにおけるリプレゼンテーションの要素の一つである場所ないし舞台は，実際に存在する

ものである必要は必ずしもなく，オーディエンスが決めるものである。その点では由谷の論[55]とも合致する。

2）アニメ聖地巡礼の変化

アニメ聖地巡礼の始まりについて，例えば由谷・佐藤（2014）は「2002年放映「おねがい☆ティーチャー」の聖地・木崎湖に巡礼者が集まり始めたとき」[55]としている。

京都アニメーション作品は京都を舞台にしたものが多く，例えば「響け！ユーフォニアム」や「けいおん！」で描かれたのは，京都市民が日常的に使う京阪電車である。京都市民にとっては，通勤や通学で使う普通の電車であり，日常の生活圏がアニメーションのリプレゼンテーションとなっただけである。

首都圏においても，女子高生がアイドルを目指す「ラブライブ」の舞台のひとつの神田明神は，神田祭りが行われる場所である。都民にとっては祭りや初詣の場所がアニメ聖地になった。また，「君の名は」の聖地の西新宿は毎日何万人ものサラリーマンの通勤経路である。

以上のことより，現在は人々が日常利用している場所がアニメ聖地になっていると考えられる。

アニメツーリズム協会（2019）が調べた聖地巡礼[52]のうち，東京都内にはアニメ聖地が4576か所あり，本大学の所在地である東京都小金井市には25か所の聖地がある。さらに学生が通学で利用する駅には11か所の聖地があり，近辺の都立小金井公園には14か所の聖地がある。したがって，アニメ聖地は学生が通常利用する場所になっている。

3）アニメ聖地巡礼への態度と課題

朝日新聞が2019年10月に聖地巡礼への調査を1483人に実施した。聖地巡礼をしたこと人は20％であるものの，映画が130人と最も多く，小説，テレビドラマに続き，アニメは57人であり，3.8％の人がアニメ巡礼を行なっているだけである。そして岡本（2018a）のアニメ聖地巡礼の定義通り[47]，すべてのジャンルに複数回行った人は68％であり，ここからアニメ聖地巡礼を推測すると2.6％である。また，聖地巡礼に行ったことがない人の理由では，「舞台やロケ地巡りに興味がない」が55％であり，「どんな聖地巡礼があれば行きたいかという質問にも733人が「聖地巡礼自体に興味がない」と回答している（加藤，2019年10月12日）[51]。こうしたことより，アニメ聖地巡礼を行なう人は少数である。

筆者が2018年1月に本学の2年生の情報教育と技術教育の学生20人を対象にした調査でも，アニメ聖地巡礼場所を記入した学生は3人であった。さらに，筆者のゼミの学生10名は，2019年10月現在，通学利用駅がアニメ聖地になっていることは知らなかった。

こうしたことより，自分が行ったことがある場所がたまたまアニメ聖地になっている可能性が出てきた。したがって，本研究では，アニメ聖地が特定のアニメファンが行く聖地から日常の場所になっていることを明らかにする。

2．本研究の目的

以上のことより，本研究の目的は，アニメーションにおけるメディア・リテラシーのリプレゼンテーションの場所について，教員養成学生の態度を明らかにすることである。そのために次の2つの仮説を設定した。

1．アニメーションの利用において，教科書における利用よりも大学入試問題における利用に許容度が低い。
2．アニメ聖地巡礼として意識している場所よりも，自分がよく知っている場所が知らずにアニメ聖地になっている方が多い。

3．本研究

本研究は，仮説1のための調査1，2と仮説2のための調査3に分けて行う。そのために，学習者，質問項目も別々に行なう。

3．1　調査1

調査1は仮説1として，アニメーションの場所と入試問題の関連を明らかにすることである。

（1）調査対象

対象者は，筆者の授業である高等学校共通教科情報の教員免許科目の関連科目「情報メディア論」を受講している学部2年生20人である。学生は，初等教育情報教育専攻4人，情報教育専攻3人，中等教育技術教育専攻13人の合計20人である。調査日は2019年1月31日である。1年前のセンター入試におけるムーミンの出題の報道はほとんど行なわれていない。

（2）質問項目と調査方法

入試問題はweb上で入手したものを出し，それに朝日新聞の2018年1月14日の記事（片山，2018年1月14日）[12]を加えて提示した。

調査前に学生にアニメについて聞いた時点では，「ムーミン」は知っているが，「小さなバイキング・ビッケ」を知らない学生が多かった。そこで，この2つのアニメーションの認知度を，5.詳しく知っている，4.知っている方だ，3.どちらでもない，2.知らない方だ，1.全く知らない，の5段階尺度で測定した。

そして，この入試問題でアニメーションを扱う許容度として，「センター入試問題にアニメを使うことについて，どの程度賛成しますか」という質問に対して，5.大賛成，4.やや賛成，3.賛成でも反対でもない，2.やや反対，1.大反対，の５段階尺度で測定した。

さらに，教科書にアニメーションが掲載されている現状の許容度について，「学校の教科書にアニメを使うことについて」ということで，校種別に，小学校，中学校，高等学校の教科書について，センター入試への許容度と同じ質問を５段階尺度で回答させた。

調査方法は，筆者の授業中の一斉回答方式で，紙のアンケート用紙に記入させたものである。

（3）分析方法

分析方法は，「ムーミン」と「小さなバイキング・ビッケ」の認知度の差を比較することである。もしこの２つのアニメーションの認知度の差があったら，選択肢が同一の条件ではないことを意味する。

次に，センター入試のアニメーション掲載の許容度と学校教科書のアニメーション掲載の許容度を比較する。このことで，新聞やニュースで掲載されたように，入試でアニメーションの舞台を問題に出すことは許されないと考えているか，あるいは教科書にアニメーションが掲載されているので入試問題でもアニメーションが掲載されているのは当然であり，ムーミンでの舞台を問題にしているニュースや新聞には反対している，と考えていることが明らかになる。

（4）調査結果

ムーミンとビッケについての認知の平均値において，ムーミンの平均値（2.25, *SD* .79）とビッケの平均値（1.20, *SD* .52）の平均値の差は有意であった（両側検定 t (19) =5.69, p<.01）。したがって，ムーミンの方が認知されていることが明らかになった。さらに小学校中学校高校の教科書とセンター入試へのアニメーション掲載の許容度を５段階尺度測定した（表１）。

表１　教科書とセンター入試問題のアニメの許容度

	教科書			センター入試
	小学校	中学校	高校	
平均	3.55	3.50	3.35	2.75
SD	0.76	0.76	0.81	0.64

N=20，数値は，５点尺度で５大賛成，１大反対

小学校教科書へのアニメーション掲載の許容度の方が高校教科書へのアニメーション掲載への許容度よりも高い数値であった。しかし，平均値の比較を検定した結果，差は有意ではなかったことから，小学校中学校高校を合わせた教科書へのアニメーション掲載の許容度の平均値（3.47, *SD* .73）とセンター入試へのアニメーション掲載の許容度の平均値（2.75, *SD* .64）を比較した。その結果，平均値の差は有意であった（両側検定 t (19) =3.09, p<.01）。したがって，アニメーション掲載の許容度はセンター入試の方が教科書よりも低いことが明らかになった。

（5）考察

結果の分析において，アニメーション掲載の許容度はセンター入試の方が教科書よりも低いことが明らかになった。したがって，仮説１は検証された。

ムーミンよりもピッケの認知度が低いことより，アニメーションでノルウェーとフィンランドを弁別するよりも，ムーミンがフィンランドのアニメーションであるという既存の知識が前提となり，その次に，ノルウェー語とフィンランド語を弁別するという問題であると言える。

また，アニメーション掲載の許容度が教科書よりもセンター入試で低いことから，センター入試にムーミンのアニメーションを掲載したことの報道の指摘は，この調査対象でも同じと考えられる。

ただし，アンケート回答時には１年前のムーミンの問題点の報道による態度変化の影響までは除くことはできなかった。

３．２　調査２　センター入試問題と高校生教育

調査２では，教員養成大学生が，高校生にこの入試問題についてどのように説明するかについて自由記述式の質問で記載させた。

（1）調査方法

時期は2019年５月に大学３年生の筆者のゼミ生７人とした。

最初に実際の入試問題を提示した。次に説明文として，入試センターによる出題意図と正解，新聞報道から，ムーミンをめぐる問題として，フィンランド大使館とスウェーデン大使館のツイート，大学入試センターの見解[7]，尾木直樹の「良問」とする肯定的意見，大阪大学大学院スウェーデン語研究室及び桜美林大学の地学教育教員・高校教員らの否定的意見を提示した。

この提示に続き，「1.このような様々な意見がある中で，あなたはこの問題をどのように考えますか。あなた自身の意見を書いてください」，「2.あなたが，高校生にこの問題について聞かれたら，どのように説明しますか？」という２つの質問を行なった。

（2）結果と考察

1）質問１の結果と考察

どのようにこの問題を考えるかということを質問した。

この問題が間違いではない，と回答した学生は皆無であった。全員が，良問ではあるが不適切である，と肯定否定の評価をしていた。良問であるという回答の根拠と想定される尾木直樹に賛成する意見が７人中５人であった。

しかし，この賛成した５人のうち，２人は実際のこの問題には欠点があることも指摘している。

このように，考えさせる良問題ではあるが，根拠不足という意見にまとめられるであろう。

２）質問２の結果と考察

質問２は，高校生にこの問題について聞かれたときの説明である。この回答では，問題の解き方の説明３人，問題点の指摘２人，良問２人となり，意見が分かれた。

問題の解き方を説明する意見では，問題に欠点があることを認めた上での解法の説明である。問題点を指摘した意見では「大学入試センター[7]でも明確な出典は確認できていない」ということを指摘の根拠にしている。良問と説明する意見では，「これからの学習では知識だけでなく思考力・判断力・表現力・洞察力など様々な力を必要とされていると説明します」としている。

３）結果と考察のまとめ

以上のことから，仮説１の検証には直接にはかかわらなかった。そして，テストへのアニメーション掲載についてはこれからの入試問題への方向性を示すと考えていることが明らかになった。

３．３　調査３　アニメ聖地巡礼調査

（１）調査対象と時期

対象者は，教員養成大学で，筆者の高等学校共通教科情報の教員免許科目の関連科目「情報メディア論」を受講している学部２年生25人である。学生は，初等教育情報教育専攻10人，情報教育専攻５人，中等教育技術教育専攻10人の合計25人である。

調査日は2019年10月24日で，大学の後期の授業の第１回目の授業である。2019年７月18日の京都アニメーション放火殺人事件から３か月を経過しているものの，その事件の報道は継続されている。

その事件報道では，京都アニメーションの作品が聖地巡礼を広めたと説明されている。したがって，この事件後に，聖地巡礼を改めて意識した学生もいる可能性がある。

（２）質問項目と調査方法

１）京都アニメーションの作品

京都アニメーションの作品は，公式ホーム―ページから選んだ。テレビ放映と映画配信が同じ作品名のものは一緒にして，23作品にした。そこに作品説明として１行程度の文章を，朝日新聞（小原ら，2019年８月18日）[42]の作品説明と公式ホームページを参考にして記入した。これらの23作品について，見たことがあるか，聖地を知っているか，聖地巡礼をしたことがあるかを質問した。

２）聖地巡礼への興味と巡礼地の認知

聖地巡礼への興味は，岡本（2018a）のアンケート項目[47]をそのまま利用して，「あなたは聖地巡礼に興味はありますか？　どれかの番号に〇をしてくださいとして，5.非常に興味がある　4.やや興味がある　3.どちらでもない　2.あまり興味がない　1.全く興味がない，の５段階で測定した。

さらに巡礼地の認知では，あなたが知っているアニメ聖地を３つまで挙げてください，と質問し，「アニメ作品名・地域名」という形で答えさせた。そしてそれぞれのアニメ聖地に，4.行ったことがある，3.行っていないがこれから行く予定，2.行ったことがないが行きたいと思う，1.行ったこともないし行きたいとも思わない，の４段階で回答させた。

３）大学周辺のアニメ聖地

アニメツーリズム協会による聖地巡礼（2019）[52]では，アニメ聖地が東京都立小金井公園８か所，学生の通学路としての国分寺駅５か所，武蔵小金井駅４か所がある。

そこで，東京都立小金井公園については，3.行ったことがある，2.行く予定，1.行く予定はない，の３段階で回答させた。さらに.国分寺駅と武蔵小金井駅については，3.通学で利用，2.行ったことがある，1.行ったことはない，の３段階で測定した。さらに，それぞれの場所の聖地としてのアニメを列挙させた。

また，アニメ聖地巡礼にどのような態度を個人的に持っているかを明らかにするために，アニメ聖地についての自由記述も記載させた。

一方，本学もすでにアニメ聖地になっており，アニメ聖地が増える可能性がある。そこで，所属大学のアニメ聖地としての態度を自由記述させた。

（３）分析結果

人数が25人と少ないために，統計的な手法は用いず，単純な分析にとどめた。

１）京都アニメーション作品の認知

京都アニメーション23作品のうち，視聴経験は20作品であった（表２）。しかし，作品の聖地を知っている学生，あるいは聖地巡礼を行なった学生は１人であった（表２）。

表２　京都アニメーション作品視聴経験

アニメ	N
聲の形	9
日常，涼宮ハルヒの憂鬱，けいおん！！	6
小林さんちのメイドラゴン，中二病でも恋がしたい！，響け！ユーフォニアム	5
CLANNAD，無彩限のファントム・ワールド	4

N=25，複数回答，３人以下の選択作品は削除

２）聖地巡礼への興味と巡礼地への認知

聖地巡礼への興味の頻度は，非常に興味がある２人，やや興味がある７人，どちらでもない２人，あまり興味がない６人，全く興味がない８人となった。したがって聖地巡礼は興味がある学生が1/3，興味がない学生2/3と分かれた。

聖地を知っている学生は19人であり，３作品を挙げた学生は６人，２作品は７人，１作品は６人であり，アニメ作品全体では37作品になった。（表３）。

これらの37作品への行動と態度では，聖地にすでに行った19，これから行く予定０，これから行きたいとは思う８，行きたいとは思わない10（数値は人数）であった。列挙した作品の半数はすでに聖地に行った場所であるが，行っていない聖地には，行きたいと思う態度と行きたくないと思う態度が半々であった。したがって，知っているだけの学生も少なからず存在していることが明らかになった。

表３　アニメ聖地の認知

アニメ	N	場所
君の名は	7	長野立石公園，前田南駅，諏訪湖，飛騨，西新宿，田端駅前，四ツ谷駅
ガールズ＆パンツアー	3	大洗町
のだめカンタービレ	3	サンタルチア，セーヌ川沿い
とある魔術の禁書目録	2	立川駅周辺
ラブライブ	2	秋葉原駅，神田明神
こち亀	2	亀有
千と千尋の神隠し	2	道後温泉，九分
天気の子	2	田端，新宿
1人：らき☆すた，鷲宮神社；一週間フレンズ，聖蹟桜ヶ丘；true tears，富山南砺市城端；バッテリー，岡山県；恋と選挙とチョコレート，小名木川；あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない，横須賀；シュタインズ・ゲート，秋葉原；Just Because!，江の島・藤沢周辺；ハイキュー !!. 仙台（体育館）；Tari Tari. 江の島；ゆる△キャン，富士山；ヤマノススメ，高尾山；ヴァンガード・リンクジョーカー編，等々力中学高校；夏色キセキ，下田市		

N=25，１人３作品まで列挙

一般的な聖地巡礼について自由記述を記入した19人の言説を検討した。そのうちアニメに興味がない学生は５人であった。しかし，５人のうち３人は，ドラマや映画のロケ地（聖地）に興味があるので，アニメ聖地巡礼に共感していた。また11人の学生はアニメ聖地について肯定的な感情を示し，その中の４人は「地元に活気が出る」など地域との関係を記載していた。しかし，２人は「住民に悪影響がなければよい」など条件付きで聖地巡礼に肯定的な意見を出していた。

３）大学周辺へのアニメ認知

小金井公園は，すでに行った９人，これから行く予定０人，これから行きたいとは思う２人，行きたいとは思わない14人であった。行った学生と行きたくない学生が２分された。この公園のアニメ聖地を知っている学生は１人で，「とある科学の超電磁砲」であった。

国分寺駅と武蔵小金井駅の通学，訪問未訪問，聖地への認知は表４の結果となった。

表４　駅とアニメ聖地

駅	通学	訪問	未訪問	アニメ
国分寺	10	15	0	なし
武蔵小金井	4	18	3	じょしらく，SHIROBAKO

N=25，数値は人数

したがって，聖地とは認識せずに聖地を訪れている学生が多いと考えることができる。

アニメ聖地としての大学について６人が記載した。２人は「誇らしい」などの肯定的意見，２人は「喜ばしいがマナーが悪い人が来るのが心配」などの賛否両方の意見，２名は「うれしいが興味はない」との無関心の意見であった。

（４）調査３の考察

１）では，京都アニメーション作品のほとんどは見ているものの，京都を舞台とした作品が多いことから，聖地巡礼はこれらの作品ではほとんど行われていないことが明らかになった。

２）では，朝日新聞の調査（加藤，2019年10月12日）[51] とは異なり，興味の有無が二分されていた。また，聖地巡礼を知っている学生は多く，作品の半数は巡礼体験があった。行ったことがない学生は，行きたいと思う学生と行く予定はない学生に二分された。

また，アニメ聖地巡礼に興味がない学生でもアニメ聖地に賛同していることが明らかになった。多くの学生はアニメ聖地巡礼に肯定的な意見を持っていたものの，地元の関係を考える学生もわずかに存在した。

３）では，自分の身近な場所にアニメ聖地があるものの，その聖地の存在に気づかない学生が大部分であることが明らかになった。さらにアニメ聖地としての大学には，全員が肯定的に考えるわけではないことが明らかになった。

これらのことより，「仮説２.アニメ聖地巡礼として意識している場所よりも，自分がよく知っている場所が知

らずにアニメ聖地になっている方が多い」は検証されたと考えられる。

ただし，調査の簡略化のため，聖地巡礼を実際に行なっている学生の意識は明らかにできなかった。したがって，今後は，アニメ聖地巡礼を行なったことがある学生にインタビューをすることで，より詳細なアニメ聖地への態度と行動意図を調べることが課題として残された。

また，学生の聖地巡礼の知識は，朝日新聞の調査（加藤，2019年10月12日）[51] よりも多いことより，これからホームページやSNSでさらにアニメ聖地が認知されていくことが想定された。

4．まとめ

本論文では，メディア・リテラシー教育において，リプレゼンテーションの要素のひとつである舞台（place）の問題を明らかにした。

ひとつは，センター入試問題において，地理的事実とムーミンのアニメーションにおける架空の場所についての教員大学生20人の態度を明らかにした。そこでは，小学校中学校高等学校において，教科書でアニメーションを利用することに対しての否定的な態度はないが，大学入試にアニメーションを利用することに対する肯定的な態度は少なかった。したがって「仮説1.アニメーションの利用において，教科書における利用よりも，大学入試問題における利用に許容度が低い」は検証された。しかし学生7人の自由記述においてはこの態度は確認されなかった。

続いて，京都アニメーションを代表とするアニメーションの舞台として，いわゆる聖地巡礼についての態度を明らかにした。京都アニメーション作品は見ているものの，聖地巡礼意図や行動は少なかった。また，聖地巡礼への興味の有無で学生が二分された。しかし，アニメーション作品の聖地の知識がある学生は，列挙した半数の作品に聖地巡礼を行なっていた。また聖地巡礼を行なっていない学生は，行きたいと思う学生と思わない学生に二分された。さらに通学路や付近の公園が聖地になっているものの，それは認知していないことが明らかになり，「仮説2.アニメ聖地巡礼として意識している場所よりも，自分がよく知っている場所が知らずにアニメ聖地になっている方が多い」も検証された。

本研究で調べた学生の聖地の認知は一般よりも高いため，今後聖地地巡礼をした学生のインタビューや，インターネットやSNSの影響も含めて調査を行う必要があることが課題とされた。

文献

1） 須川亜紀子．まえがき．須川亜紀子・米村みゆき編著：アニメーション文化55のキーワード（pp.i−ii.）．ミネルヴァ書房，2019.

2） QCAA (2019). *Film, Television and New Media General Senior Syllabus 2019*. https://www.qcaa.qld.edu.au/senior/senior-subjects/the-arts/film-television-new-media/syllabus（20191001取得）

3） 中橋雄・水越敏行：メディア・リテラシーの構成要素と実践事例分析．日本教育工学雑誌27（Suppl.），pp.41−44，2003.

4） 棚田英治・黒田卓：「デジカメを使った4コマストーリーの発表会」の授業実践と生徒の評価からの検討．全日本教育工学研究協議会全国大会・富山大会，pp.49−52，2001.

5） Stewart, C., & Kawaltze, A. :*Media : New ways and meanings 3rd*. (pp.35−68). Australia: Jacaranda, 2008.

6） Buckinghum, D. (2003). *Media Educaiton: Literacy, learning and contemporary culture*. (pp.57−59). London: Policy Press.（鈴木みどり監訳，メディア・リテラシー教育：学びと現代文化．世界思想社．2006）

7） 大学入試センター：センター試験平成31年度本試験の問題地理B，2019．https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00036445.pdf&n=k+07+chiriB.pdf（20190928取得）

8） ちばかおり：ハイジが生まれた日：テレビアニメの金字塔を築いた人々．岩波書店，2017.

9） 森本洋介：メディア・リテラシー教育における「批判的」な思考力の育成．東信堂，2014.

10） 鷲田清一（2019年9月19日）．折々のことば1585．朝日新聞．東京版朝刊．p.1.

11） Macmillan Children's Books, Jansson, T., Ardagh, P., & Frank, C. B. (2017). *The Moomins: The World of Moominvalley*. Macmillan Children's Books（徳間書店児童書編集部訳．ムーミン谷のすべて：ムーミントロールとトーベ・ヤンソン．徳間書店，2018）

12） 片山健志（2018年1月14日）．ムーミンどこに住んでいる：地理B出題ツイート続々．朝日新聞.

13） 土居新平・峯俊一平（2018年1月16日）．ムーミンとピッケ舞台は？　それは難問だ。センター試験．大使館「ムーミン谷　それぞれの心の中が正しい．朝日新聞.

14） 峯俊一平（2018年1月17日）．ムーミン設問「支障ない」 大学入試センターが見解．朝日新聞.

15） 峯俊一平（2018年1月27日）．ムーミンの設問　良

問？根拠弱い？　大学入試センター試験　議論続く　判断力を問う出題．朝日新聞.
16）斎藤寛子・土居新平（2018年1月27日）．フィンランドの新聞騒動紹介．朝日新聞
17）川上春夫：映像教育論．法政大学出版，1968.
18）米村みゆき：日本文学―様々なアニメーション．須川亜紀子・米村みゆき編著．アニメーション文化55のキーワード．ミネルヴァ書房．pp.20-24，2019.
19）豊田充崇・西村充司：メディア・リテラシー育成を目指した小学校国語科授業実践事例の報告ー「ごんぎつね」を映像とアニメーションで表現し比較する―. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要，14，pp.39-44，2004.
20）本田勝久・柏木賀津子・神白哲史・中河有貴：小学校英語教育における語彙教材の開発に向けて．コンピュータ＆エデュケーション，20，pp.25-30，2006.
21）柏木賀津子：小学校における英語の語彙学習のためのアニメーション教材の開発--動詞のスキーマフォーメーションに着目して．日本児童英語教育学会研究紀要，26，pp.45-60，2007.
22）柏木賀津子：小学校外国語活動における子どもの動詞フレーズへのForm-Meaning Connections--メタ認知力を育てる動詞アニメーション教材の開発をとおして．コンピュータ＆エデュケーション，29，pp.18-23，2010.
23）佐々木弘記：タブレット型PCを用いた親子による家庭学習と学校での道徳授業とのブレンド型授業に関する研究．中国学園紀要，17，pp.141-147，2018.
24）塩田真吾・小池翔太・荒崎智史・市野敬介：中学校数学科における宇宙教育の授業開発と評価：宇宙観測の疑似体験とアニメーション教材の開発．CIEC研究会報告集7，pp.31-36，2016.
25）藤田あずさ・大鹿聖：中学校理科「化学変化と電池」におけるイオンを視覚化するアニメーション教材の開発．日本理科教育学会東海支部大会研究発表要旨集，61，p. C1500．2015.
26）益子礼子・川島芳昭・石川賢［他］：消費者教育におけるアニメーション教材の開発と評価．宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要，24，pp.45-54．2001.
27）安藤明伸・住川泰希：モーションキャプチャと仮想空間を利用した鋸引き動作観察教材の開発と機能評価．日本教育工学会論文誌，36（2），pp.103-110．2012.
28）杵淵信・鳥居隆司・菅野徳明・漆畑文哉・福田恒康・吉田淳：イオンモデルのアニメーション教材が電気分解における生徒の推論に及ぼす影響の分析．日本科学教育学会研究会研究報告，29（1），pp.97-102．2018.
29）杵淵信・鳥居隆司・菅野徳明：コンピュータ・グラフィックスによる内燃機関のアニメーション教材の学習効果．上越教育大学研究紀要，11（2），pp.411-418．1992.
30）佐渡由季子・御園真史：アニメーション教材を利用した中学校第3学年「標本調査」の問題解決学習における生徒の議論の分析．秋期研究大会発表集録，47，pp.319-322．2014.
31）杵淵信・鳥居隆司・菅野徳明：コンピュータ・グラフィックスによる内燃機関のアニメーション教材の開発．日本産業技術教育学会誌，37（2），pp.155-161．1995.
32）岡島俊哉・前田友和・黒河伸二：中等教育段階におけるアニメーション教材の活用（私のくふう）．化学と教育，52（12），pp.846-847．2004.
33）岡俊博・吉川泰正：技術教育におけるWindowsパソコンの活用に関する実践的研究．教育実践研究指導センター研究紀要，（6），pp.35-47．1997.
34）佐渡由季子・御園真史：アニメーション教材を利用した中学校数学科第3学年「標本調査」の授業実践．日本科学教育学会研究会研究報告，28，（7），pp.133-138．2018.
35）漆畑文哉・吉田淳：アニメーション教材を導入した授業における粒子概念の変容的評価―高等学校化学基礎「中和」の実践を例に―．科学教育研究，9（3），pp.243-251．2015.
36）漆畑文哉・福田恒康・吉田淳：イオンモデルのアニメーション教材が電気分解における生徒の推論に及ぼす影響の分析．日本科学教育学会研究会研究報告，29（1），pp.97-102．2018.
37）外務省：フィンランド共和国基礎データ．2019. https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/finland/data.html（20191001取得）
38）Nationalmuseet - museer og slotte i hele Danmark (2019). Vikingernes hjelme. Hjelme med horn? https://natmus.dk/historisk-viden/danmark/oldtid-indtil-aar-1050/vikingetiden-800-1050/vaaben/hjelme（20191001取得）
39）羽根和人（2019年9月10日）．犠牲者の実名どう報道：再発防止社会で考えるため．朝日新聞14版朝刊
40）富岡万葉（2019年8月18日）．悲しみこれからずっと：京アニ放火1か月犠牲の津田幸恵さん父．朝日新聞朝刊14版，p.1.
41）小原篤・小池寛木・野崎智也・坂東慎一郎・山崎琢

也（2019年８月18日）．京アニがくれたもの．朝日新聞朝刊14版，p.24.
42）吉田寛也・坂東慎一郎（2019年８月18日）．京アニ新人　第一歩の矢先．朝日新聞朝刊14版．p.27.
43）向井光真（2019年９月５日）．京アニメ放火「四十九日」悼む．法要にファン・地元住民ら参列．朝日新聞４版，p.34.
44）長富由希子（2019年９月18日）．京アニメ作品参加人生の誇り．映画「聲の形」手話モデルの大学生．ひとりぼっちの時　勇気きれた．朝日新聞朝刊14版，p.26.
45）大貫聡子（2019年10月19日）．京アニ放火現場撤去へ　第１スタジオ　新作は来年４月以降．朝日新聞朝刊14版，p.34.
46）岡本亮輔（2015）．聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで．中央公論社.
47）岡本健：アニメ聖地巡礼の観光社会学：コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析．法律文化社，2018a.
48）岡本健：巡礼ビジネス：ポップカルチャーが観光資産になる時代．角川書店，2018b.
49）関西大学プレリリーズ：宮本勝浩「四国八十八ヶ所お遍路さんの経済効果」18，2016．https://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/pressrelease/2016/No18.pdf（20191026取得）
50）NHK（2019年10月５日）．ETV特集「シリーズ日系人強制収容と現代 私も“収容所の子ども”だった」https://www4.nhk.or.jp/etv21c/x/2019-10-05/31/5743/2259671/（20191026取得）
51）加藤修（2019年10月12日）．「聖地巡礼」したことはありますか？朝日新聞be on Saturday. p.10.
52）アニメツーリズム協会：聖地巡礼東京都，2019. https://anime-tourism.jp/r/Tokyo/（20191018取得）
53）浪田陽子・福間良明編：初めてのメディア研究；基礎知識からテーマの見つけ方まで．世界思想社，2012.
54）中橋雄：メディア・リテラシー論：ソーシャルメディア時代のメディア教育．北樹出版．2014.
55）由谷裕哉・佐藤喜久一郎：サブカルチャー聖地巡歴：アニメ聖地と戦国史跡．磐田書院，2014.
56）向井大輔・高井里佳子・富岡万葉・半田尚子・紙谷あかり・茶井祐輝（2019年11月３日）「向こうで続編作っといてな」京アニ犠牲者にファン別れ．朝日新聞デジタル．https://www.asahi.com/articles/ASMC356M0MC3PTIL00T.html（20191109取得）

本研究は，科学研究費基盤研究（C）（16K01103）の一部を利用した。